

## 附属図書館長就任のあいさつ

### 何でもない扉

附属図書館長 太田 耕人



何でもない、ごくふつうの扉。

エジプト出土品の陳列室へいたる階段の中ほど、踊り場のすみに、ひっそりと一枚の木製のドアがあった。扉を開いて中へはいり、短い廊下をぬけると、一気に視界が広がった。

大きな円形の閲覧室である。長大な机が放射状に並ぶ。見上げると、高々としたドーム型の天井。その水色の壁面には規則正しく窓がうがたれ、清明な光が射している。

ロンドンの大英博物館の内にあったこの旧大英図書館で、若いわたしはいろいろなことを体験した。多くのひとがそのうつくしい閲覧室を愛し、灰みがかった青色の革を貼った机は、本郷の東大総合図書館の机に模倣されている。

G7 という席でマルクスが『資本論』を執筆したというので、「巡礼」するひとが時々あった。マルクスが通ったのはドームになる前の方形の閲覧室だから、なんとも時代錯誤的なのだが、ことほどさように皆がゆったりと、しかし創造的に思索にふけていた。世界最大級の図書館ながら、当時はまだ検索もカードや目録が頼り。文献が書庫からでてくるのに半日かかるのもざらだった。その分、館員のひとに本のことだけでなく、研究の方向にかんしても諸々の示唆をもらった。

1998年に移転した新大英図書館は、電子検索システムを毎年のように改良して、およそ20分で必要な書籍が手にとれるようになった。さまざまなオン・ライン媒体も利用できる。便利この上ない。だがじっくりと本を読みこみ、問題と向きあうというより、検索し調査し複写する空間になったとおもう。

さまざまな利用者が必要とする、広い意味の「テキスト」を差しだすことを、図書館は業務としている。検索や提示のため、コンピューターは欠かせない。コンピューターを媒介すると、テキストはしばしば「情報」と呼び慣わされ、簡便なものとして扱われるきらいがある。だが情報とはけっして、さっと眼を走らせればこと足りるものではない。情報という名のテキストを自分の感性でひもとき、背景に思いをはせ、深く読み解いてこそ、知の創造につながる。

実験室が実験装置をもちいて自然のなぞに迫る場所なら、図書館はみなさんの頭脳のなかにならば化学反応を生じさせて森羅万象に迫る場所とってよい。わたしたちの図書館の閲覧室や書庫でも、135年の永きにわたり収集された貴重な資料が読者との出逢いを待っている。単なるインクの染みにすぎないテキストが、読まれることでみなさんの思考の中に甦り、息づくことを待ち焦がれている。

ちょっとした自習をするのもいい。調べ物をするのもいい。だがぜひ深い思索と研究をする場として、図書館を利用してほしい。みなさんの頭のなかで反応をおこすテキスト——文献でもCDでも画集でも——に巡りあってほしい。

何でもない本を手にとり、その扉を開いたら、驚くべき知的空間が広がっていた。そんな体験ができるように、図書館になにができるか、館長として不断に考えていこうとおもう。みなさんの思考や調査のために適切な助力ができるよう、いっそう工夫を重ねようとおもう。

春は図書館へ。さあ、扉を開こう。





## 新入生のみなさんへ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんの大学生活が実り豊かなものになりますよう、図書館職員一同、心からお祈りします。

さて、大学での授業では、自分でテーマを決めて資料を集め、自分なりの答えを導き出すという主体的な学習・研究スタイルが多くなります。図書館では、みなさんの主体的な学習を手助けできるよう、本や雑誌はもちろん、Web上のデータベースなどの資料を取りそろえております。最初は難しいと思うかもしれませんが、図書館ガイダンスやデータベース利用講習会などでサポートいたします。ぜひご活用ください。

また、学術資料以外に小説や一般雑誌もあります。授業の空き時間にもどうぞご利用ください。



## 図書館からのお知らせ

### カウンター業務の委託について

京都教育大学附属図書館は、利用者サービスの拡充と教育支援環境のより一層の充実を目指して、平成23年4月よりカウンター等一部業務をナカバヤシ株式会社に業務委託することといたしました。カウンターの職員は変わりますが、今後も従来通りのサービスをご提供するとともに、より便利な図書館となるよう図書館職員一同努力して参りたいと思っておりますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

休暇貸出の返却期限日は**4月11日(月)**です。忘れずに返却してください。

なお、4月7日(木)までは平日の開館時間が17時までとなっております。

※ 図書館の開館日程は図書館HPをご覧ください。<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/Kaikan2011.html>

### 平成23年度の図書館利用証について

《非常勤講師、非常勤職員等の方》

利用証の年度更新が必要です。図書館カウンターでお手続きください。更新手続きが終了するまで、お手持ちの利用証では入館ゲートを通れませんので、ゲートの前で職員に声をおかけください。

《卒業生の方》

すでに卒業生利用証をお持ちの方は、年度更新が必要です。現住所を確認できる書類をお持ちの上、附属図書館カウンターでお手続きください。更新手続きが終了するまで、お手持ちの利用証では入館ゲートを通れませんので、ゲートの前で職員に声をおかけください。

初めて卒業生利用証を作る方は、現住所を確認できる書類および卒業を確認できる書類をお持ちの上、附属図書館カウンターでお申し込みください。

《一般利用者の方》

すでに図書館利用証をお持ちの方でも、新年度ごとに新規の利用証の発行が必要です。現住所を確認できる書類をお持ちの上、附属図書館カウンターでお手続きください。また、旧利用証は図書館にご返納ください。

### 国立情報学研究所提供のサービスの利用制限について

現在東京電力による計画停電実施に伴い、国立情報学研究所提供のサービス(CiNii、Webcat、Webcat Plus等)が利用できない時間帯があります。詳しくは、国立情報学研究所のHP等でご確認ください。

## 第16回「うたとおはなしの会」を開催します

京都教育大学では附属図書館と幼児教育科の平井研究室の共催で年2回(春と冬)に就学前の子どもと保護者を招いてうたとおはなしの会を開催しています。毎回100名近くの参加者があり、季節のうたや遊び、幼児教育科の学生が演じる人形劇やパネルシアターなど、楽しさたっぷりの1時間です。是非ご家族やお友達みんなで遊びに来て下さい。

【日時】2011年4月29日(金) 祝日 11:00~12:00

【会場】京都教育大学2号館(D棟)4階 幼児教育演習室(2C432)

【対象】幼児(3~6歳くらい)と保護者:0~2歳児さんも大歓迎!

【料金】無料

【申込方法】保護者氏名・お子様のお名前と年齢・電話番号を明記の上、ハガキ・FAX・電話またはE-mailにてお申し込みください。

【問い合わせ先】

〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1番地 京都教育大学附属図書館グループ

TEL:075-644-8176(平日17時まで) FAX:075-644-8182

E-mail: [tosomu@kyokyo-u.ac.jp](mailto:tosomu@kyokyo-u.ac.jp)

## ライフスキル教育コーナーを新設しました

このコーナーには平成22年度の教育研究改革改善プロジェクトの一環として購入された約50冊の図書が配架されています。自身のライフスキルの向上や、ライフスキル教育の指導方法の学習のためにご活用ください。また、平成23年度からは学部教育課程の自由科目として「ライフスキル教育」が開始されますので、授業の理解を深めるためにもご利用ください。



## 雑誌閲覧室の雑誌の配置が変わりました

北館2階雑誌閲覧室の和雑誌・洋雑誌について、整理作業を行いました。配置順は大きく変更していませんが、位置がずれていますのでご注意ください。また、いくつかの雑誌は雑誌閲覧室前のパンフレット架に移動させましたので、そちらもぜひご覧ください。

## 《2010年度第2回 除却図書譲渡》を実施中です

- ・ 日時:4月9日(土)までの図書館開館時間中  
※4月9日は「ふれあい伏見フェスタ」にて公開します。
- ・ 場所:附属図書館1階玄関ゲート前、北館1階階段横、北館2階視聴覚室

▽ 除却図書とは? ▽

図書館内の狭隘化のため重複した書庫内図書を除籍したものです。十分使用に耐えうるものも存在しています。新入生のみなさんも是非一度お立ち寄りください。

## 通常の学級における適応に困難さのある児童への対応 — 小学校のLD等通級指導教室への調査研究を通して —

相澤雅文・西村弘子

京都教育大学紀要 No.117 p.83-98

## 「気になる」児童の行動変容と支援との関連 — 「気になる」児童のチェックリストと心理尺度「Q-U」を通して —

相澤雅文・本郷一夫

京都教育大学紀要 No.117 p.115-127

相澤雅文(特別支援教育臨床実践センター 准教授)

2006年度から特別支援教育が本格的に開始されてから、4年の歳月が過ぎようとしている。特別支援教育についての関心は大きく3つの系統に整理できると考えている。1つ目は、発達障害の特性そのものの理解、アセスメントとその見立てや個別的な支援のあり方についてである。いわば、「個」の理解・対応についての関心である。2つ目は、早期発見・早期対応から始まり、中期高等教育や高等教育の場での対応、就労にむけての課題解決などである。これは移行支援を含めた「縦」系列への対応の関心といえる。3つ目は家庭や学級の環境、人間関係、支援機関といった児童生徒を取り巻く環境からの影響に対する関心である。これは児童生徒の「横」のつながりへの関心といえる。

2編の論文においては、「個」に対する支援に加えて、取り巻く環境、すなわち「横」のアプローチのあり方に迫ることに主眼をおいている。

通級指導教室への調査研究では、学級集団の中での適応の難しさが児童の心理面に大きな影響を与えていることから、通級指導教室での学習活動に加え、在籍する通常の学級での理解や配慮を広げていくことの重要性が示唆された。

行動変容と支援との関連の研究では、対象児への個別的な支援に加えて、対象児を取り巻く児童に対しても支援を意識的に行うことが、対象児の望ましい行動変容につながることを示唆された。

特別支援教育は「個」、「縦」、「横」といった3つの座標軸で示される空間ベクトルに支援のバランスをどう位置づけていくかといった視点が求められていると考えている。

本タイトルの論文は京都教育大学紀要 117号に掲載されています。

京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/>からも閲覧可能です。

●京都教育大学附属図書館ホームページはこちらから <http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版図書館ホームページはこちらから

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/m/mhome.htm>

右記のQRコードからも

アクセスできます



京教図書館 News No.127 (2011年4月号)

発行日：平成23年4月1日

編集発行：京都教育大学附属図書館

内容に関するお問い合わせ先：library@kyokyo-u.ac.jp